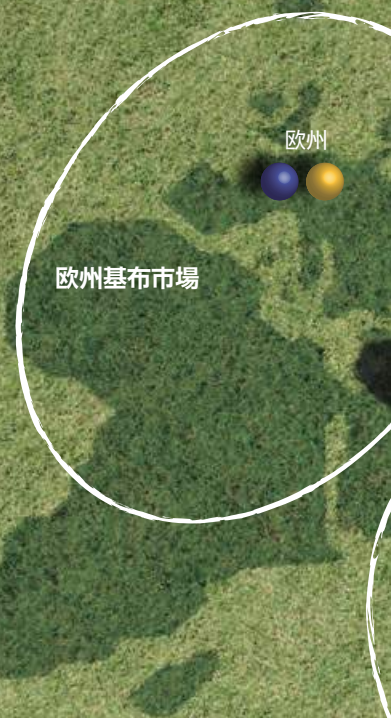


東レグループの海外生産活動は「長期にわたってその地に根を下ろし、その国・地域の経済発展に貢献すること」を基本方針とし、1963年にタイで紡績・織布・染色一貫製造会社を設立したのが第一歩です。日本企業としては極めて早い時期からの現地生産で、1960～70年代には東南アジア、80年代には欧米、90年代には韓国・中国に展開し、繊維から始まり、フィルムや炭素繊維などの生産拠点を設立していきました。そして現在、東レグループでは海外拠点と国内拠点が有機的に連携し、市場動向や為替などの事業環境変化に応じて、グローバルな最適生産・供給体制を敷いています。また、どの地域でも高品質な製品を安定・継続して供給できる生産体制を構築しています。

東レグループは、2018年度末において世界26カ国に拠点を有し、海外売上高は約1兆3,000億円、海外売上高比率は55%となっています。これに対し、海外生産比率は繊維、樹脂、フィルム、炭素繊維といった主要製品で75～80%超と売上比率を大きく上回っています。このようなグローバル生産体制を大きな強みの一つ



有機的な拠点連携により、 グローバル規模で持続的な成長を図る

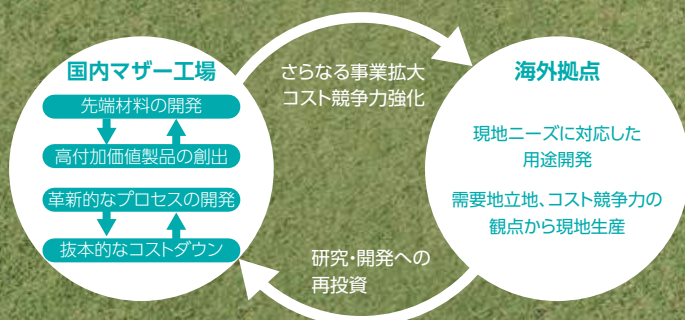
東レの強み

04

Global Production System

グローバル生産体制

として、最先端の革新的な研究・技術開発を日本のマザー工場で行い、需要とコスト競争力の観点から現地生産体制を迅速・柔軟に構築する戦略によって、グローバル規模で持続的な成長サイクルを回しています。さらに各拠点で現地ニーズに対応した用途開発を推進し、新たな収益機会を獲得しています。



アジア基布市場



- 原糸生産販売 3カ国
- 基布生産販売 6カ国
- R&Dセンター 2カ国
- マーケティング 8カ国

グローバル一貫生産体制で 「エアバッグ基布」No.1を目指す

エアバッグ市場が、新興国での自動車販売台数拡大や搭載率上昇により急成長しています。東レグループのエアバッグ用繊維事業は、メキシコにおいて2018年より、原糸から基布までの一貫生産を開始し、グローバル生産体制を一層強固にしています。現在東レグループではエアバッグ用繊維を3カ所、エアバッグ用基布を6カ所でグローバル生産しており、全ての拠点から同品質のエアバッグ基布をタイムリーに供給できるグローバル生産体制を構築しています。このような取り組みはBCP(事業継続計画)の観点からも高く評価されており、厳しい品質管理と信頼性の求められるエアバッグ基布市場で、東レグループは世界シェアNo.1を目指しています。

米州基布市場

